

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	東淀川区
学校名	東井高野小学校
学校長名	北代 聰

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・東井高野小学校では、第6学年 46名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語では全国・大阪市の平均正答率と同水準、算数では全国・大阪市の平均正答率より約2%、理科では全国・大阪市の平均正答率より約3%高くなっている。朝のモジュール学習など、基礎・基本の習得に日々取り組んだ成果が表れている。平均無解答率は、国語、算数、理科のいずれも、全国・大阪市平均より大幅に低かった。最後まであきらめずに問題に取り組もうとする姿勢が見られる。

児童質問紙では、自尊感情や自己肯定感に関する質問には肯定的な回答が多い。一方、学習については、宿題はしているが家で予習・復習を含めた学習の計画を立てて勉強することに課題があり、学校と家庭との連携が必要である。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」については、大阪市平均正答率より約2%高くなっている。一方で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、大阪市・全国平均正答率より約1%低くなっている。漢字学習をはじめとした基礎・基本の充実と、読書を通して自分の考えを広げる活動を推進していく必要がある。

〔算数〕 「測定」「変化と関係」「データの活用」については、大阪市・全国平均正答率より約4%高くなっている。一方で、「図形」については、大阪市・全国平均より約5%低くなっている。習熟度別学習などを通して、個に応じた手立てや支援を行うことで、「わかる」を実感できる機会を多くもたらせる必要がある。

〔理科〕 「『エネルギー』を柱とする領域」では約6%、「『粒子』を柱とする領域」では約8%、「『地球』を柱とする領域」では約3%、大阪市平均正答率より高くなっている。子どもたちの、理科の学習への興味・関心の高さがうかがえる。今後も、子どもの実態に応じて、専科制を継続するなど、「わかる」「たのしい」を実感できる授業づくりをすすめていきたい。

質問調査より

「学校に行くのは楽しい」に肯定的な回答が93.2%、「自分には良いところがある」に肯定的な回答が95.4%で、全国・大阪市より、最も肯定的な回答を含め肯定的な回答の割合が上回っている。児童が、充実した学校生活を実感できたり、それらの経験から自尊感情や自己肯定感などが高まったりした経験を、学習面にも広めていく必要がある。学習については、国語科と算数科の「授業の内容はよく分かりますか」に肯定的な回答の割合が、全国・大阪市より上回っており、日々の授業改善の成果であると考えられる。授業以外の学習時間が30分未満の児童の割合が52.3%で全国の18.6%より大幅に高く、児童の「学ぶこと」全般への前向きな意欲を、実際の行動力につなげていくことが本校の課題である。

今後の取組(アクションプラン)

- ・国語・算数における基礎・基本の習得を確実なものにするため、朝のモジュール学習を設定して、研究部が作成した系統性を持った学習プリントを全学年で継続して行う。
- ・子どもたちが「わかる」「できる」「たのしい」を実感できる学習の進め方を教職員みんなで研究し、様々な活動に参加感をもって意欲的に取り組もうとする力を育成する。
- ・一人一台端末やデジタル教科書などの更なる活用を図る。算数科においては「図形」の学習を中心に、図形の多面的な見方を習得する、理科では「生命」を柱とする領域を中心に、動植物の成長について、教材動画を視聴するなど、ICT機器の長所を活かしていく。
- ・学期に1回実施する読書週間や「図書館ボランティア」「読み聞かせ隊」などの地域団体・PTAと連携しながら、子どもたちが主体的に読書や活字に親しむ機会を設ける。
- ・家庭学習(自主学習ノート『プラスノート』)の充実に取り組む。

【 全体の概要 】

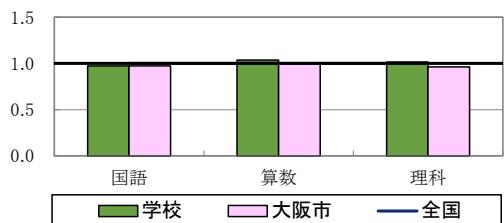
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	65	60	58
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

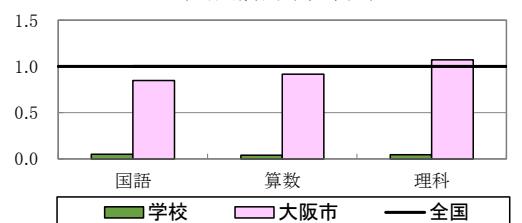
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	0.2	0.1	0.1
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



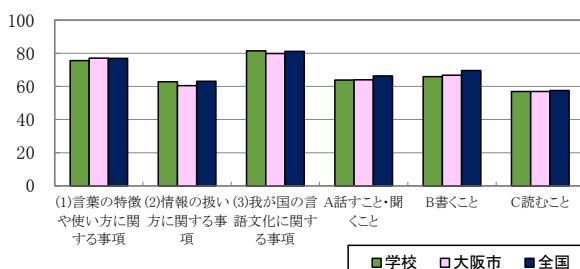
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	75.6	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	62.8	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	81.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	63.9	64.0	66.3
B 書くこと	3	65.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	57.0	56.9	57.5

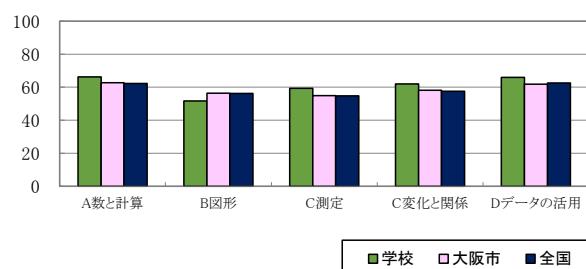
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	66.3	62.7	62.3
B 図形	4	51.7	56.4	56.2
C 測定	2	59.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	62.0	58.2	57.5
D データの活用	5	66.0	61.9	62.6

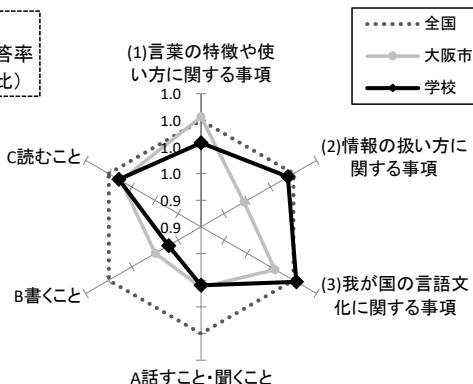
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



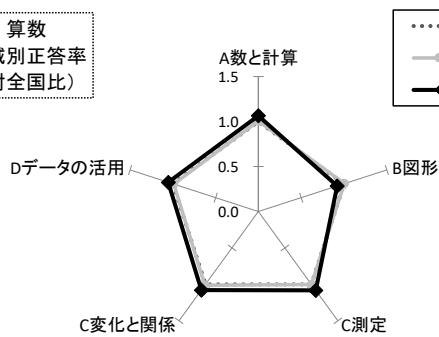
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

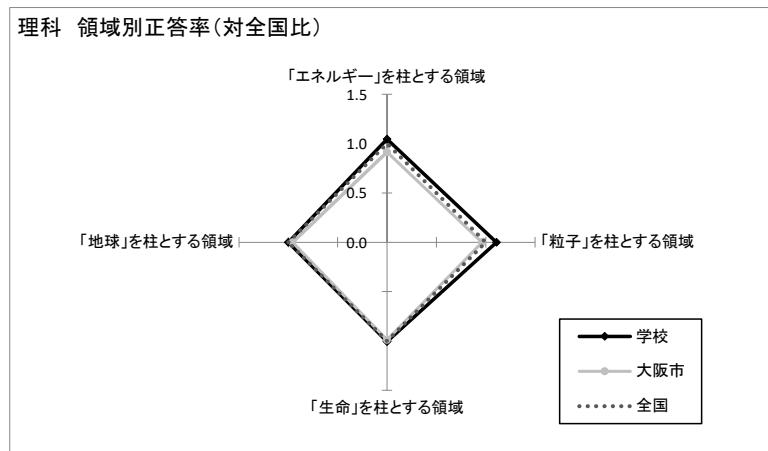
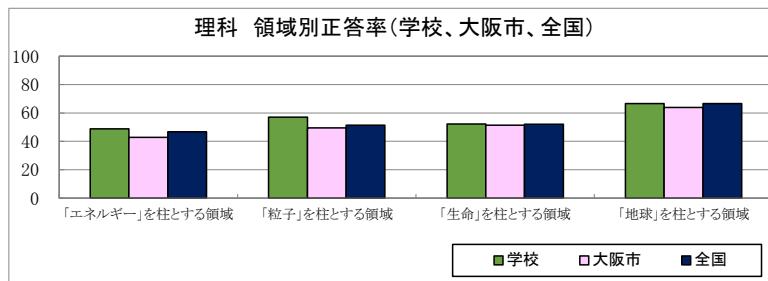


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を柱とする領域	4	48.8	42.7	46.7
	6	57.0	49.5	51.4
B 区分 「粒子」を柱とする領域	4	52.3	51.4	52.0
	6	66.7	63.8	66.7



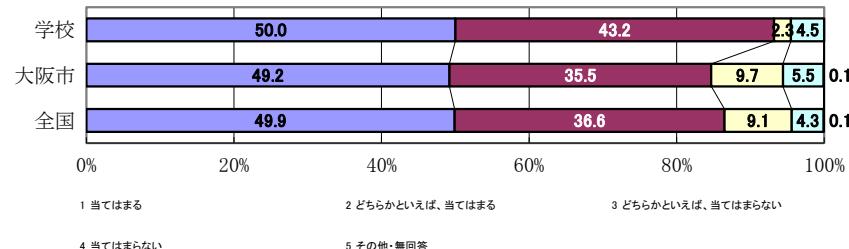
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

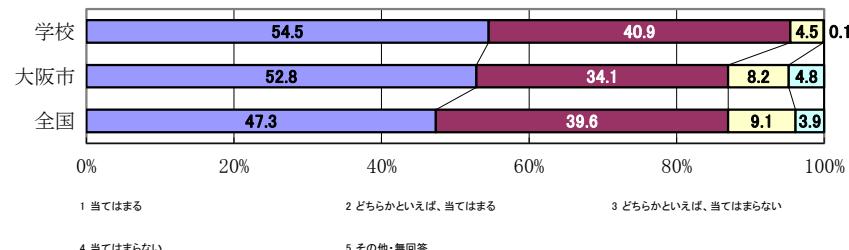
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



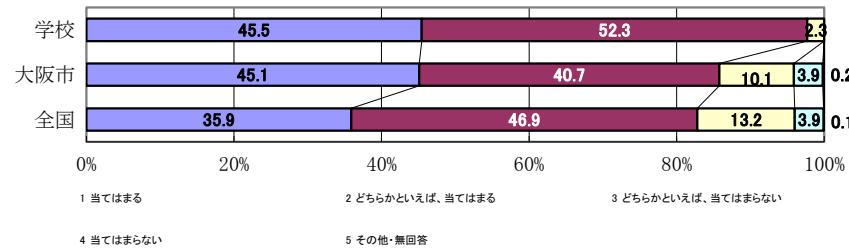
5

自分には、よいところがあると思いますか



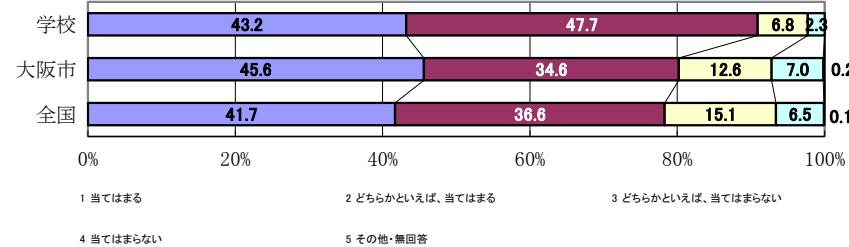
46

国語の授業の内容はよく分かれますか



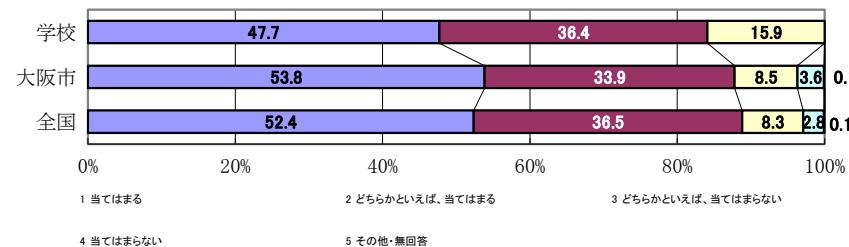
54

算数の授業の内容はよく分かれますか



62

理科の授業の内容はよく分かれますか



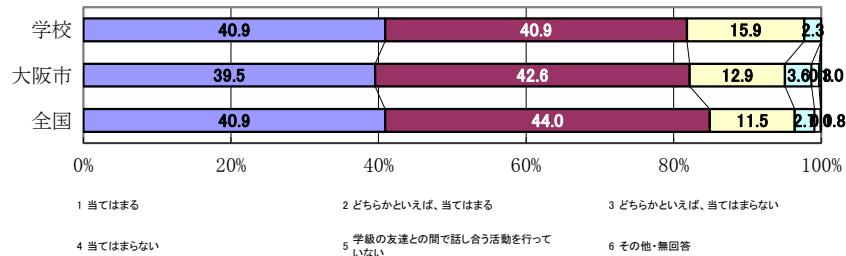
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

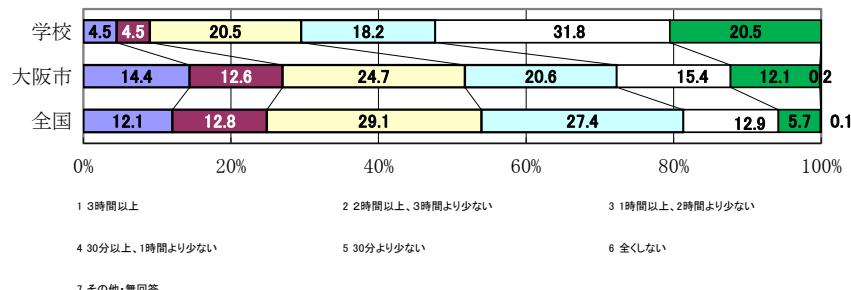
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



28

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

